

1943

シンドラーのリスト

SCHINDLER'S LIST

映画で考える 「一人の選択が命を救う」

対象：高校生以上

名前

年 組

1 差別は、少しずつ進む

ナチス・ドイツによるホロコースト（ユダヤ人の大量虐殺）は、いきなり始まったわけではありません。言葉による差別から、少しずつ段階を追って進んでいきました。

📖 「見て見ぬふり」をしない、という選択。

🔑 差別の4つの段階

① 言葉による差別 → ② 権利の制限 → ③ 住む場所の隔離（ゲットー） → ④ 収容所。「おかしい」と声を上げにくい空気が、それを支えてしまいました。

※この映画は実話をもとにしています。約600万人のユダヤ人が殺害されたとされます。

2 「一人の選択」を考える4つの視点

■ ① 差別は少しずつ進む

小さな言葉の段階で気づくことが大切。

■ ② 見て、知って、変わる

シンドラーは、目の前の現実を見て変わっていった。

■ ③ 数ではなく一人

白黒の中の「赤いコート」が、一人の命を思い出させる。

■ ④ 今できることを選ぶ

完ぺきでなくても、小さな行動は選べる。

3 映画『シンドラーのリスト』とは

あらすじ（実話がもと）

第二次世界大戦中のポーランド。ドイツ人実業家オスカー・シンドラーは、ユダヤ人を安い労働力として使う工場で成功します。しかし、ユダヤ人への暴力や虐殺を目の当たりにする中で心が変わり、会計係のシュテルンとともに**工場で働く人の名前を書いた「リスト」**をつくって、1100人以上の命を救ったとされます。

白黒の映像と「赤いコート」

ほぼ全編が白黒で撮られています。その中で、一人の少女のコートだけが赤く描かれます。大勢の中の「一人」に気づかされる場面です。アカデミー賞7部門を受賞しました。

見るときの心がまえ

とても重く、つらい場面が出てきます。**気分が悪くなったら、無理をせず先生に伝えてください。**「なぜこんなことが起きたのか」を考えながら見ましょう。

4 「一人の選択」ワーク

映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① 差別が「少しずつ」進んでいったことについて、気づいたことは？

② シンドラーの変化がいちばん表れた場面と、その理由は？

③ 「赤いコート」は、何を伝えていたと思う？

④ 差別を見たとき、自分にできる小さな行動は？

5 ふりかえり

差別は、_____から始まり、少しずつ進むと分かりました。これから、身近で差別を見たときは、_____をしたいと思います。



「『見て見ぬふり』をしない、という選択。」

先生・保護者へ：『シンドラーのリスト』は上映時間が195分と長く、虐殺・銃撃・裸体（収容所の選別場面）など非常に重い描写を含みます。本資料は高校生以上を想定しています。年齢区分は配信・ソフトにより表示が異なる場合があるため、上映前に確認してください。部分視聴と歴史的背景の事前・事後指導、生徒の心理的負担への配慮をお願いします。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。